

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100313		
法人名	(株)イービーエーサービス		
事業所名	グループホームおおさとの憩		
所在地	山梨県甲府市大里町3375-1		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市郊外に広がる静かな住宅街に位置し、平屋で周囲の景観に馴染んだ施設となっております。介護付有料老人ホームと併設し中庭は散歩コース、日光浴など入居者の憩いの場として活用され、日々楽しい笑い声が聞かれます。施設独自の運営理念を掲げ、笑顔の輪・地域との輪・言葉の愛を柱として「その人がその人らしく」生活して頂ける様に取り組んでおります。地域密着の特性を生かし地域行事、催し等に積極的に参加し自治会、近隣の皆様と交流を図り親睦を深めております。又、夏祭りを開催し地域の皆様にも毎年、庭を埋め尽くす程の人数の方に参加して頂いています。書道、俳句、手芸、演奏会、保育園児の来所等ボランティアも積極的に受け入れ入居者様に楽しんで頂ける環境作りに取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は、幼稚園、小・中学校があり静かな住宅地で地域に密着した恵まれた環境にある。同じ敷地内には介護付き有料老人ホームが併設し、お互いに行き来し馴染みの関係が作られている。中庭を活用し夏祭り等で地域の住民と交流したり、地域の幼稚園児が来所してお遊戯会を事業所で行い、利用者と一緒に楽しんでいる。事業所独自の俳句の会「木蓮会」があり、地元の新聞に投稿して掲載され利用者、家族の励みとなり、また手芸、習字など趣味の活動も指導者を招いて行っている。また、利用者の話を聞いてもらう、傾聴ボランティアを依頼し個別の支援をしている。職員も日々の支援で気づいた事をメモし、センター方式を活用した支援に繋げるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームおおさとの憩

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の運営理念を職員全員で考え共有している。・笑顔の輪・地域との輪・言葉の愛朝礼時、職員で唱和し意識統一をしている。	施設独自の運営理念を職員全員で考え共有している。・笑顔の輪・地域との輪・言葉の愛朝礼時、職員で唱和し意識統一をしている。	会社全体の理念「あいさつ・態度・表情・身だしなみ・言葉づかい」と事業所の理念を朝礼時と夜勤帯の引継ぎ時に唱和し、管理者と職員は理念の統一を図り支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設での行事を地域の方々に参加して頂き交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設での行事を地域の方々に参加して頂き交流を深めている。	地域の幼稚園児やサッカー少年団の来訪や事業所の夏祭りに地域の住民を招待して地域との交流に積極的に取り組んでいる。地域の清掃活動にも参加している。自治会加入を希望した所、3月に開催の自治会の総会で加入が決定される予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や近隣の方々との関わりを大切にし認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。	地域の行事や近隣の方々との関わりを大切にし認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行しているおおさと新聞の中に実施日を入れたり、電話連絡して参加を募る。入居者も参加し意見交換をしている。家族会にて議題に上げ意見交換している。	毎月発行しているおおさと新聞の中に実施日を入れたり、電話連絡して参加を募る。入居者も参加し意見交換をしている。家族会にて議題に上げ意見交換している。	2か月に1回、会議の終了時に参加者の希望を聞いて次回開催日を決めている。また、毎月の事業所だよりで家族に知らせ、多数の出席がある。意見交換や講師を招いて講話してもらうなど、充実した会議になりサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当、地域包括センター職員と情報共有し疑問や解らない時は、指導を仰ぎ連絡を密にしている。	市町村担当、地域包括センター職員と情報共有し疑問や解らない時は、指導を仰ぎ連絡を密にしている。	運営推進会議の議事録や事業所だよりを手渡している。事業所の状況報告や市からの書類など解らない所は窓口に行き指導してもらい、電話でも相談に応じてもらうなど、日頃から関係を密にし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者のケアの見直しや身体拘束、言葉のロックをしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、自由に入出入りが出来る様心掛けている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者のケアの見直しや身体拘束、言葉のロックをしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、自由に入出入りが出来る様心掛けている。	身体拘束委員会・コンプライアンス委員会等4つの委員会がある。毎月会社の議題があり、コンプライアンス委員が司会をして話し合いを行っている。フロア会議においてもスピーチロックについて話し合い、職員間で意見統一して支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー研修が月1回あり、コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会に議題を下ろし認識を強化し研修や勉強会を実施している。	リーダー研修が月1回あり、コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会に議題を下ろし認識を強化し研修や勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。	外部、内部での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時に問題点が残らない様に説明している。疑問や不安があるときは、随時対応し説明をして理解を図っている。	入居契約時、改定時に問題点が残らない様に説明している。疑問や不安があるときは、随時対応し説明をして理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年2回開催し家族の想いを反映し出来る努力を図っている。家族、来客に職員の顔と名前が一致出来るように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすい様に努力している。	家族会は、年2回開催し家族の想いを反映し出来る努力を図っている。家族、来客に職員の顔と名前が一致出来るように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすい様に努力している。	年2回家族会を開催し、意見等を気軽に伝えられるような機会をつくっている。地震等災害時の安否確認について家族から意見があり、伝達方法を統一した。また、職員の顔写真に名前を書いて玄関に掲示し、家族に知ってもらえるように対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年3~4回の社長の来所で会社の意向、事業所の意見を吸い上げ運営に反映している。	年3~4回の社長の来所で会社の意向、事業所の意見を吸い上げ運営に反映している。	代表者が行事がある時など来所し、職員と一緒に食事をし意見や要望を聞く機会をつくっている。リーダーが職員の個人面接を年1回行い、意見や要望を聞くようにしている。また、職員の気づきをアンケートで取り、管理者はケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来た環境作りをしている。向上心を持って仕事が出来た様、給料、賞与に反映し人事考課の整備をしている。	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来た環境作りをしている。向上心を持って仕事が出来た様、給料、賞与に反映し人事考課の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修、免許取得に取り組めるよう支援し、外部研修で学んだ事を内部研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。	職員が率先して研修、免許取得に取り組めるよう支援し、外部研修で学んだ事を内部研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員や他のグループホームとの交流、社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員や他のグループホームとの交流、社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の担当を決めて、アセスメントをセンター方式書式で統一し、家族、職員から情報を集め信頼環境の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。	入居者様の担当を決めて、アセスメントをセンター方式書式で統一し、家族、職員から情報を集め信頼環境の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用出来る様努力している。	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用出来る様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来る事やしたい事を中心に共同生活関係を構築できるよう努力している。	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来る事やしたい事を中心に共同生活関係を構築できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月御家族には、事業所での生活状態をおおさとの新聞にして、行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。又家族と共に支援している。	毎月御家族には、事業所での生活状態をおおさとの新聞にして、行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。又家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を聞いて、外食、イチゴ狩り、ぶどう狩り、中庭での昼食会等地域とのつながりを持ち利用者の趣味嗜好を取り入れ広く機会を提供している。又、友人、知人が訪問しやすい環境を整えている。	利用者の希望を聞いて、外食、イチゴ狩り、ぶどう狩り、中庭での昼食会等地域とのつながりを持ち利用者の趣味嗜好を取り入れ広く機会を提供している。又、友人、知人が訪問しやすい環境を整えている。	誕生日に帰宅したり墓参りに行くなど関係継続のための支援を行っている。地域社会との関係継続が困難な利用者は、入居してからの外出場所や人との新たな馴染みの関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事食や中庭でのお茶会などで利用者同士が関わり合いを多くし共同生活が支え合える様支援している。	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事食や中庭でのお茶会などで利用者同士が関わり合いを多くし共同生活が支え合える様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。	退去後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来る事やしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。その人らしく暮らせる様支援している。	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来る事やしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。その人らしく暮らせる様支援している。	センター方式の書式をより活用できるよう気づきのメモをつくり、利用者の発した言葉や日常の会話から知りえた細かな情報を記録したり、フロア会議でも利用者に関する情報を共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。又以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。又以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントや知りえた情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し心身状態の安定に努めている。	担当者がアセスメントや知りえた情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し心身状態の安定に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画見直しに、担当職員・本人家族の意見を介護計画に反映出来る様になっている。本人のADLに合わせ、サービスの見直し、サービスの追加、変更を行っている。	ケース会議や介護計画見直しに、担当職員・本人家族の意見を介護計画に反映出来る様になっている。本人のADLに合わせ、サービスの見直し、サービスの追加、変更を行っている。	入居前調査表で利用者の生活背景を把握し、面接をして介護計画の原案を作成する。担当者会議で家族の同意を得て、1週間の経過を記録し、1か月の総合評価をしている。関係者でモニタリングし、3か月に1度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、センター方式を取り入れ計画プランに活かしている。	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、センター方式を取り入れ計画プランに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望等に対応するよう努め、県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力をもちながら、その時の必要なニーズに取り組んでいる。	入居者、家族の要望等に対応するよう努め、県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力をもちながら、その時の必要なニーズに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設での行事を地域の方々に参加して頂き交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設での行事を地域の方々に参加して頂き交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が往診として月2回入居者の診察をしているが、地域の総合病院と連携協力書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	主治医が往診として月2回入居者の診察をしているが、地域の総合病院と連携協力書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	3名の利用者が、これまでのかかりつけ医を家族同行で受診している。1か月のバイタルを看護師が主治医にFAXし家族にも手渡している。他の利用者は、協力医の往診が月2回あり、診察を受けている。受診結果は、家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談出来る環境を作っている。早期対応を心掛けている。	介護職は、様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報共有し医療分野において相談出来る環境を作っている。早期対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。又入院者に対し定期的に様子観察する為に病院へ伺い情報交換して利用者の方が早く退院出来るように関係づくりをしている。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供を出来るだけ詳細に行っている。又入院者に対し定期的に様子観察する為に病院へ伺い情報交換して利用者の方が早く退院出来るように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には、家族の意向を十分組み入れ、適切なケアを提供出来る環境づくりに努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には、家族の意向を十分組み入れ、適切なケアを提供出来る環境づくりに努めている。	入居時に本人、家族の意向を踏まえ、事業所が対応し得るケアについて説明を行い、希望を聞いている。利用者全員の緊急マニュアルが各居室に備えてあり、利用者毎の緊急時に対応できるようになっている。重度化した場合の対応として医療連携体制は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に甲府南消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し緊急時に活用している。	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に甲府南消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し緊急時に活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、甲府南消防署に依頼し、避難訓練を行い、地域の方にも避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。居室ドアに誘導レベルが解る様にシールを巻き職員の意識を統一している。	年3回、甲府南消防署に依頼し、避難訓練を行い、地域の方にも避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。居室ドアに誘導レベルが解る様にシールを巻き職員の意識を統一している。	消防署立ち合いで、昼間と夜間を想定して年2回利用者とともに避難訓練を行い指導、評価を得ている。事業所独自の避難訓練も実施しシーツで利用者を背負い避難する方法を実践した。地域の協力体制は近くの会社と消防団の協力が得られている。	年3回事業所で避難訓練を実施しているが、職員だけの誘導の限界を踏まえて、予定されている自治会への加入を機に地域の人々の協力が得られるように一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をし、その方の人格を尊重して心のケアに努めている。	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をし、その方の人格を尊重して心のケアに努めている。	利用者のその人らしさを大切に尊厳を守った対応をしている。基本は苗字で呼びかけ、語尾を上げる事、方言を使わないことを職員間で統一している。第三者が聞いた時を意識した適切な言葉づかいを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境づくりをしている。	入居者の担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いや希望を担当者が聞き取りし希望を実施できるよう努めている。自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。	入居者の思いや希望を担当者が聞き取りし希望を実施できるよう努めている。自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者様に職員がお化粧や整髪して生活に活力がでるよう努力している。	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者様に職員がお化粧や整髪して生活に活力がでるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食事作り食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し、献立表の記録は、入居者が毎食記録を行っている。	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食事作り食器洗いや食器拭きなど、その方の能力に合わせて支援し、献立表の記録は、入居者が毎食記録を行っている。	献立は本部の管理栄養士が作成している。行事食、誕生会は利用者の希望を聞き、好みのメニューに変えている。また、調理の準備、片付け等利用者と職員が共に行い、同じテーブルで同じものを食べ会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、また、行事などで入居者の希望を聞いて提供し、季節の食材や郷土料理を取り入れ提供し、水分については日中、夜間時の水分、食事量をチェックを行っている。	栄養士が作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、また、行事などで入居者の希望を聞いて提供し、季節の食材や郷土料理を取り入れ提供し、水分については日中、夜間時の水分、食事量をチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は、声掛にて実施し、介助が必要な方については、職員が毎食後、口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの内容についても、中沢歯科と連携を取り、口腔ケアでの意識の向上に努めている。	自立されている方は、声掛にて実施し、介助が必要な方については、職員が毎食後、口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの内容についても、中沢歯科と連携を取り、口腔ケアでの意識の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を使用し、日中は利用者全員が誘導することによりトイレで排泄できるよう支援し、布パンツ使用を目指している。また、利用者が椅子から立ち上がった時など察知し、さりげなく声掛けをし誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操や梅干し体操を実施して身体を動かし、便秘の防止に努めている。又、食事内容やおやつ等工夫し便秘予防に努めている。	毎朝、ラジオ体操や梅干し体操を実施して身体を動かし、便秘の防止に努めている。又、食事内容やおやつ等工夫し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日～土曜日まで入浴日があり入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時に、足浴しながら体を洗って浮腫対策している。入浴内容を入居者に確認もらい実施している。	月曜日～土曜日まで入浴日があり入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時に、足浴しながら体を洗って浮腫対策している。入浴内容を入居者に確認もらい実施している。	月曜から土曜日の午前中、利用者のその日の希望を確認し入浴している。入浴剤が数種類用意しており、好みの香りを聞いて入浴している。足浴から浴槽、足浴からシャワー浴と浮腫対策を心がけている。また、病院受診の前日などは、その都度対応している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況に即した就寝を頂ける様、就寝前のお茶を飲みながらテレビ観賞などして介護者が就寝の介助に努めている。	生活状況に即した就寝を頂ける様、就寝前のお茶を飲みながらテレビ観賞などして介護者が就寝の介助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、薬剤師、ドクターと情報共有した事を、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、薬剤師、ドクターと情報共有した事を、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所で調理して頂いたり、掃除をして頂いたり、その方の出来る事を日々職員が、把握している。誕生日にはその方が食べたい物やして見たい事を聞き喜んで頂ける様、心掛けています。	台所で調理して頂いたり、掃除をして頂いたり、その方の出来る事を日々職員が、把握している。誕生日にはその方が食べたい物やして見たい事を聞き喜んで頂ける様、心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事の内容によりボランティアの方々に依頼して隣の施設と連携して、入居者が外出が出来る様支援している。又、職員のシフトの調整を図り、いちご狩り、お風呂、外食、出前希望に沿う様努力している。	行事の内容によりボランティアの方々に依頼して隣の施設と連携して、入居者が外出が出来る様支援している。又、職員のシフトの調整を図り、いちご狩り、お風呂、外食、出前希望に沿う様努力している。	日常の散歩コースがあり、職員が付き添い車いすの利用者は、歩ける利用者が押して一緒に散歩をしている。ボランティアや家族の協力でイチゴ狩りやぶどう狩りの外出や公共施設の温泉、中庭でほうとう会、テラスで昼食会など戸外へ出ることを積極的にやっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得られた方や金銭管理が出来る入居者のみお財布を持ち、買い物や、外出時に支払っている。その他の入居者は、施設立替で買い物出来る環境を提供している	家族の理解を得られた方や金銭管理が出来る入居者のみお財布を持ち、買い物や、外出時に支払っている。その他の入居者は、施設立替で買い物出来る環境を提供している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を受けたり、電話を出来る環境にある。入居者の心身状況に沿って支援している。	家族からの電話を受けたり、電話を出来る環境にある。入居者の心身状況に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節に応じた展示物を飾り、入居者の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など育て季節を感じてもらい外に出で外気浴をして頂いている。	行事の写真や季節に応じた展示物を飾り、入居者の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など育て季節を感じてもらい外に出で外気浴をして頂いている。	利用者が日中過ごしている共用空間は、天井が高く開放感があり五感刺激の配慮がされている。居間からウッドデッキに出られ、庭の木々を見て季節を感じる事が出来る。壁には、行事で外出した写真や利用者が作った俳句、季節の作品が掲示されて過ごしやすいうち場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間作り、テラスから畑や中庭の花々を見て癒し空間になるよう工夫している。	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間作り、テラスから畑や中庭の花々を見て癒し空間になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染のあるものを置いたり、趣味の物を展示したり生活に活気が出る様工夫している。家族の希望があれば、宿泊もできる体制になっている。	馴染のあるものを置いたり、趣味の物を展示したり生活に活気が出る様工夫している。家族の希望があれば、宿泊もできる体制になっている。	和室と洋室の2ユニットになっている。和室には障子・洋室には防火カーテンが、また、机・いす、物入れが各居室に備えてある。使い慣れた馴染みの物を持ち込んだり、習字や趣味の作品を部屋に飾って、その人らしく居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が出来るように共有部分の整理、整頓し、その方の生活リズムを把握し共有して安全に生活して頂くように努めている。	安全に生活が出来るように共有部分の整理、整頓し、その方の生活リズムを把握し共有して安全に生活して頂くように努めている。		